

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	社会	学年	1	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会 地理、新しい日本の歴史	出版社名	東京書籍、育鵬社
------	-------------------	------	----------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第1章 世界のすがた	1 地球のすがたを見てみよう 2 地球儀と世界地図を比べてみよう 3 地球上の位置をあらわそう 4 世界の国々と地域区分 5 おもな国々の国名と位置	○	○	○	○	<p>授 業 の 概 要</p> <p>1年生の社会では、地理的分野と歴史的分野を学びます。地理的分野では、地球儀と地図の特徴や使い方、各気候帯での人々の暮らしと、世界の諸地域について各州ごとに学習していきます。歴史的分野では、わが国の歴史を中心に古代4大文明から安土・桃山時代までを学習します。教科書だけではなく地図や資料集・年表も使って世界の諸地域の特色や、歴史の大きな流れを身に付けます。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・地図と地球儀の特色を理解し、その特色を説明できる。 ・古代の日本について、その成り立ちを理解し、年表を用いて説明できる。 ・世界の諸地域について、その地形や気候の特色を理解し、その地域に生活する人々の暮らしについて説明できる。 ・中世の日本について、武士が果たした役割を理解し、幕府政治の移り変わりについて説明できる。</p> <p>評 価 の 観 点</p> <p>関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>地理的・歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って世界の諸地域の特色について認識を養おうとし、わが国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもととする。</p> <p>思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>地理的・歴史的事象から課題を見だし、世界の地域的特色や各時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>資 料 活 用 の 技 能</p> <p>地図や統計、年表など地理や歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>知 識 ・ 理 解</p> <p>世界の諸地域について、その地域構成や地域的特色、地域の課題などを理解し、わが国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、それらについての知識を身に付けている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」「授業態度・取り組み方」「定期考査」「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備 考</p>	
		5	第2章 世界各地の人々の生活と環境	1 寒帯でくらす人々 2 冷帯にくらす人々 3 温帯でくらす人々 4 乾燥帯にくらす人々 5 熱帯でくらす人々 6 山にくらす人々 7 低い土地にくらす人々 8 人々の生活に根ざす宗教 9 伝統的な生活とその変化	○	○	○		○
			中間考査(5/15～5/16)			◎	◎		◎
		6	第1章 原始と古代の日本	1 日本列島ができたころの人々 2 豊かな自然と縄文文化	○	○	○		○
	第1節 日本のあけぼのと世界の文明		3 文明のおこりと中国の古代文明 4 稲作・弥生文化と邪馬台国 5 古墳の広まりと大和朝廷 6 大和朝廷と東アジア 7 世界の宗教と日本	○	○	○	○		
	第2節 「日本」の国の成り立ち		8 聖徳太子の国づくり 9 大化の改新と激動の東アジア 10 飛鳥文化・白鳳文化と遣唐使 11 大宝律令と平城京 12 天平文化	○	◎	○	○		
	期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)				◎	◎	◎		
	7	第3章 世界の諸地域	1 アジア州をながめて 2 経済成長がいちじるしい中国とインド	○	○	◎	○		
		1節 アジア州			○	○	◎		
	8	夏季休業日(7/21～8/26)							
	9	2節 ヨーロッパ州	3 休息に変わる東南アジア 4 多様な民族と経済成長	○	○	○	○		
		1節 ヨーロッパ州	1 ヨーロッパ州をながめて 2 ヨーロッパ文化の共通性 3 進むヨーロッパ統合 4 ヨーロッパの課題とロシア連邦	○	○	◎	○		
第2章 中世の日本				○	○	○			
第1節 武家政治の成立		13 平安京と摂関政治 14 新しい仏教と国風文化		○	○	○			
10	中間考査(10/9～10/10)			◎	◎	◎			
	第2節 武家政治の動き	15 武士の登場と院政 16 武士の世の到来と鎌倉幕府 17 幕府政治の展開と人々の暮らし 18 新しい仏教と武士の文化	○	◎	○	○			
	19 元寇と鎌倉幕府の衰え			◎	○	○			
	20 建武の新政と南北朝の動乱 21 室町幕府と東アジア			○	○	○			
11	22 戦国時代と人々の暮らし 23 室町時代の文化			○	○	○			
	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)			◎	◎	◎			
12	3節 アフリカ州	1 アフリカ州をながめて 2 アフリカの産業と新たな開発 3 アフリカの課題と展望	○	○	◎	○			
	冬季休業日(12/21～1/6)								
一 学 期	1	4節 北アメリカ州	1 北アメリカ州をながめて 2 広大な国土と工業化した農業 3 工業の発展と工業地域 4 アメリカで生まれた生活・文化	○	○	◎	○		
		5節 南アメリカ州	1 南アメリカ州をながめて	○	○	○	○		
	2	6節 オセアニア州	2 自然環境と共生する人々 3 開発の進行とその影響		○	◎	○		
		1 オセアニア州をながめて 2 資源によるアジアとのつながり 3 人々によるアジアとのつながり			○	○	◎		
三 学 期	3	第3章 近世の日本	24 ヨーロッパ人の世界進出 25 ヨーロッパ人の来航		○	○	○		
		第1節 ヨーロッパとの出会い	26 織田信長と豊臣秀吉の全国統一 27 豊臣秀吉の政治と外交		○	○	○		
	第2節 信長・秀吉の全国統一	28 雄大で豪華な桃山文化		○	◎	○			

教科	社会	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会 地理、新しい日本の歴史	出版社名	東京書籍、育鵬社
------	-------------------	------	----------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第2章 世界から見た日本のすがた	1 世界の地形 2 日本の地形・気候 3 自然災害と防災	○	○	○	○	<p>授業の概要</p> <p>地理分野では日本について学習します。多面的な視点から地域的特色を把握し、地域間の結びつきや、国および地域が抱える課題について学習します。また、世界から見た日本のすがたについても学習します。</p> <p>歴史分野では近世を学習します。日本の歴史を中心として、日本と諸外国との関係や、歴史的な出来事を広い視野にたつて学習します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・世界地図や日本地図を活用し、世界や日本の様々な地域的特色を理解することができる。 ・世界や日本の様々な自然や農業・資源などについて理解することができる。 ・歴史に関する興味・関心を高め、日本の近世の歴史を理解することができる。 ・歴史上の出来事や動きについて、その背景や原因、問題点を論理的に考えることができる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>地理的・歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って世界の諸地域の特色について認識を養おうとし、わが国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもととする。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>地理的・歴史的事象から課題を見だし、世界の地域的特色や各時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>資料活用の技能</p> <p>地図や統計、年表など地理や歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>知識・理解</p> <p>世界の諸地域について、その地域構成や地域的特色、地域の課題などを理解し、わが国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、それらについての知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」「授業態度・取り組み方」「定期考査」「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>
		第1節 世界から見た日本の自然環境	1 世界の人口分布と変化 2 日本の人口と人口問題 3 日本の過疎・過密問題	○	○	○	○	
		第2節 世界から見た日本の人口	1 世界の資源・エネルギーと産業 2 日本の資源・エネルギーと産業、環境問題	○	○	○	○	
		第3節 世界から見た日本の資源・エネルギーと産業	3 日本の農林水産業 4 日本の工業、商業、サービス業	○	○	○	○	
	5	第4節 世界と日本の結びつき	1 グローバル化が進む世界 2 日本各地を結ぶ交通・通信	○	○	○	○	
		中間考査(5/15～5/16)			◎	◎	◎	
	6	第3章 近世の日本	29 江戸幕府の成立 30 「鎖国」への道 31 「鎖国」のもの4つの窓口	○	○	○	○	
		第3節 江戸幕府の政治	32 身分制度の確立 33 綱吉の文治政治と町人文化 34 新田開発と産業交通の発達	○	○	○	○	
		第4節 産業・交通の発達と町人文化	35 藩校と寺子屋 36 享保の改革 37 田沼政治と寛政の改革 38 欧米諸国の接近	○	○	○	○	
		第5節 幕府政治の改革	39 天保の改革と諸藩の改革 40 江戸の町人文化 41 新しい学問と思想	○	○	○	○	
		期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)				◎	◎	
	7	第3章 日本の諸地域	1 九州の地理・生活・環境問題	○	○	◎	○	
第1節 九州地方		2 九州の産業		○	○	◎		
8	夏季休業日(7/21～8/26)							
	第2節 中国・四国地方	1 中国・四国地方の地理・生活 2 都市の役割と課題	○	○	○	○		
9	第3節 近畿地方	3 高齢化が進む農村と町おこし 4 持続可能な社会をつくる	○	○	○	○		
	第3節 近畿地方	1 近畿地方の地理・生活 2 古都の成り立ちと現在	○	○	◎	○		
	第4節 中部地方	3 都市と郊外の成り立ち 4 現代に開発されたニュータウン		○	○	○		
10	第4節 中部地方	1 中部地方の地理・生活 2 工業の発展と地域の変化		○	○	○		
	中間考査(10/9～10/10)	3 自然環境を生かした各地の農業 4 世界と結びつく中部地方		○	○	○		
	第4章 近代の日本と世界	42 欧米の市民革命・産業革命 43 欧米列強のアジア進出	○	◎	○	○		
	第1節 欧米諸国の進出と幕府の危機	44 黒船来航の衝撃 45 尊皇攘夷と江戸幕府の滅亡	○	○	○	○		
11	第2節 明治・日本の国づくり	46 五箇条の御誓文と明治維新 47 新しい国づくりへの道		◎	○	○		
	第2節 明治・日本の国づくり	48 学問・兵制・税制の改革 49 明治初期の外交と国境の画定		○	○	○		
	第2節 明治・日本の国づくり	50 岩倉使節団と西南戦争 51 殖産興業と文明開化		○	○	○		
12	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)	1 関東地方の生活の舞台 2 関東地方の人々の営み		◎	◎	◎		
	第5節 関東地方	3 首都・東京と各地との結びつき		○	◎	○		
1	冬季休業日(12/21～1/6)	4 各地との結びつきで成り立つ産業と生活 5 世界への窓口・日本の中心		○	○	○		
	第6節 東北地方	1 東北地方の地理・生活 2 伝統的な生活や文化を守る	○	○	◎	○		
2	第7節 北海道地方	3 伝統産業と新しい産業 4 新しい文化の形成と地域の変化	○	○	○	○		
	第8節 日本をながめて	1 北海道地方の地理・生活 2 特色ある自然と人々の工夫	○	○	○	○		
	第8節 日本をながめて	3 畑作物・酪農製品づくりとその活用 4 自然の特色を生かした町づくりと産業		○	◎	○		
3	第4章 身近な地域の調査	1 身近な地域を見直そう 2 テーマを決めて調査計画をたてよう	○	○	◎	○		
	学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)			◎	◎	◎		
3		3 調査結果をまとめよう		○	○	○		
		4 発表会をして地域の将来像を考えよう		○	○	○		

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	社会	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい日本の歴史、新しいみんなの公民	出版社名	育鵬社
------	--------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第4章 近代の日本と世界	52国会開設へ向けて・自由民権運動 53大日本帝国憲法の制定と帝国議会	○			◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>3年生の歴史は近代、現代の日本の歴史を学びます。わが国の先人たちが、どのように苦勞して、今の豊かな日本をつくり上げたのかを様々な資料を参考にしながら、学習します。</p> <p>ペリー来航から、日清、日露の戦争による独立の維持、第一次世界大戦後の大國としての動き、大東亜戦争に至るまでの道のり、そして敗戦にいたるまでの歴史の流れの中から把握します。現代社会では、現代社会の問題点と自己のあり方について学びます。基本的人権や政治機構についての基本的事項を身に付けます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の殖産興業政策と文明開化の進展を理解することができる。 ・大日本帝国憲法の内容と世界の評価を理解することができる。 ・日清、日露戦争勃発の背景について理解できる。 ・大東亜戦争にいたる経緯を理解できる。 ・民主主義の意義について理解できる。 ・基本的人権の大切さが理解できる。 ・三権分立と日本の政治機構の基本的関係について理解できる。
		第3節 アジア最初の立憲国家・日本	54不平等条約の改正への努力 55朝鮮半島と日清戦争		○	○	◎	
		第4節 近代産業の発展と近代文化の形成	56ロシアとの激突・日露戦争 57国際的地位の向上と韓国併合日清戦争	○	○			
		第5章 二度の世界大戦と日本	58日本の産業革命と国民生活の変化 59西洋文化と明治の文化		◎		○	
		第1節 第一次世界大戦前後の日本と世界	60第一次世界大戦 61ロシア革命と第一次世界大戦の終結	○			◎	
		中間考査(5/15～5/16)	62 ベルサイユ条約と国際協調の動き 63大正デモクラシーと政党政治	○			◎	
	5	第2節 第二次世界大戦終結まで	64ワシントン会議と日米関係 65文化の大衆化・大正の文化		◎	◎	◎	
			66世界恐慌と協調外交の行きづまり 67共産主義とファシズムの台頭	○	○	○		
			68中国の排日運動と満州事変 69日中戦争(支那事変)		○	○	◎	
			70緊迫する日米関係 71第二次世界大戦	○			○	
			72太平洋戦争(大東亜戦争) 73日本軍の進出とアジア諸国			◎	○	
		期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)				◎	◎	
二 学 期	7	第6章 現代の日本と世界	74戦時下の暮らし 75戦争の終結 76戦前・戦中の昭和の文化	◎	○			
		第1節 第二次世界大戦後の民主化と再建	77占領下の日本と日本国憲法 78朝鮮戦争と日本の独立回復	◎			○	
		夏季休業日(7/21～8/26)						
		9	第2節 経済大国・日本の国際的役割	79冷戦と日本 80世界の奇跡・高度経済成長	○		○	◎
			第2章 私たちの生活と政治	81冷戦と昭和時代の終り 82戦後と現代の文化 83冷戦の終結と日本の役割	○			◎
			第1節 日本国憲法の基本原則	1法と私たちの生活 2大日本帝国憲法と日本国憲法		○	○	
	10	第2節 基本的人権の尊重	3民主主義と天皇 4人権の歴史 5基本的人権の尊重	◎		○	○	
		第2節 基本的人権の尊重	6平和主義 7平和主義と防衛 8憲法改正のしくみ	◎		○	○	
		中間考査(10/9～10/10)	1自由権 2法の下での平等 3ともに生きるために	◎		○	○	
		第3章 私たちの生活と政治	4社会権 5参政権と請求権 6新しい権利 7国際社会における人権	◎		○	○	
		第1節 民主政治のしくみ	1民主主義とは 2政党と政治 3選挙のしくみ 4政治参加と世論	○	○	○		
		第2節 国民の代表機関としての国会	1三権分立と国会のしくみ 2立法権をもつ国会	○	○	○		
11	第3節 行政権をもつ内閣	1内閣と議院内閣制 2内閣の仕事と行政のはたらき	○	○	○			
	第4節 裁判所と司法権	1裁判所の役割と司法権の独立 2裁判のしくみ 3司法への参加と人権の保障	○	○	○			
	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)				◎	◎	◎	
	第5節 地方自治と住民	1私たちと地方自治 2地方公共団体の政治のしくみ 3私たちのまちづくり	○	○	○			
	第4章 私たちの生活と経済	1経済活動と経済成長 2経済の発展と産業構造の変化	○	○	○			
	冬季休業日(12/21～1/6)							
三 学 期	1	第1節 消費と経済	3消費と家計 4消費者の権利と保護		○	○	◎	
		第2節 生産と労働	1流通のしくみ 2企業の種類と役割 3企業の競争 4企業の責任と労働者の権利		○	○	◎	
		第3節 市場経済と金融	1市場経済とは 2市場経済と価格 3金融のはたらき 4日本銀行のはたらき 5国際金融	○			○	
		第4節 私たちの生活と財政	1政府の仕事 2財政と租税 3景気の変動と経済政策		◎		○	
		第5節 私たちの生活と福祉	1社会保障のしくみ 2福祉の充実と課題 3環境の保全 4日本経済のこれから	◎		○	○	
		第5章 私たちと国際社会の課題	1世界の中の日本人として 2国家とは何か 3国家と私たち	○	○	○		
	2	学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)				◎	◎	◎
		第1節 国家と国際社会	4国際連合のはたらき 5世界平和の実現に向けて 6国際社会での協調	○	○	○		
		第2節 持続可能な社会をつくるために	1地球規模の環境問題 2資源・エネルギー問題		◎		○	
			3人口の急増と食糧問題 4持続可能な社会をめざして	◎		○	○	
3	第1節 国家と国際社会	4国際連合のはたらき 5世界平和の実現に向けて 6国際社会での協調	○	○	○			
	第2節 持続可能な社会をつくるために	1地球規模の環境問題 2資源・エネルギー問題		◎		○		
		3人口の急増と食糧問題 4持続可能な社会をめざして	◎		○	○		

備 考

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	日本史A	学年	5 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	現代の日本史 改訂版	出版社名	山川出版社
------	------------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	序章 近代以前の日本 第1章 開国と維新	1 古代から近世まで	◎	○	○		授 業 の 概 要 近現代(19世紀以降)の日本の歴史を中心に学習します。江戸時代後半から現代までを中心に取り扱い、それ以前の歴史は最小限に取り扱います。細かな事象や高度な事項には深入りせずに、基本的な事項を学習します。	
			1 明治維新の背景 2 西洋への開国		◎	○	○		
			3 政治秩序の崩壊	○	○	◎			
			4 王政復古と急進的改革	○	○	◎			
			5 新たな対外関係の樹立と内乱の終結	○	○	◎			
	5	中間考査(5/15～5/18)			○	○	◎		
	6	第2章 近代国家の形成と発展	1 立憲政治をめざして		◎	○	○		
			2 憲法の制定と議会の開設		○	○	◎		
			3 東アジアの国際環境と条約改正問題	○	○	◎			
			4 清国との戦い	○	◎	○			
5 藩閥・政党の対立と協力				○	◎	○			
7	期末考査(6/27～7/3)			○	○	◎	学 習 の 到 達 目 標 ・近現代を中心とする日本の歴史の展開を、国際社会の政治や文化などと関連付けながら考察し、歴史的思考力を培うことができる。 ・知識を習得するための講義に加え、作業的・体験的な学習を行うことで、歴史への関心を高めるとともに、歴史的なものの見方、考え方を身に付ける。		
7		6 ロシアとの戦い	○	○	◎				
		7 日露戦争後の国際関係と日本	○	◎	○				
8	夏季休業日(7/21～8/26)								
9	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	1 産業革命の進展		○	○	◎			
		2 資本主義の確立とその特色	○	○	◎				
		3 社会問題の発生	○	◎	○				
		4 国民文化の形成	◎	○	○				
		5 国民生活の変化		○	○	◎			
10	中間考査5年(10/2～10/5) 中間考査4・6年(10/9～10/12)			○	○	◎		評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それらの課題を意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	
11	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	1 第一次世界大戦と日本の外交	○	◎	○				
		2 デモクラシーの高まりと政党		○	○	◎			
		3 国際協調と軍縮の進展		◎	○	○			
		4 政党政治の時代	○		◎	○			
		5 大戦中から戦後の経済と社会	○	○	◎				
		6 都市化と大衆文化		○	○	◎			
12	期末考査(11/28～12/4)			○	○	◎	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。		
12	第5章 第二次世界大戦と日本	1 昭和恐慌		○	○	◎			
		2 協調外交の行きづまり		○	◎	○			
1	冬季休業日(12/21～1/6)							資 料 活 用 の 技 能 歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。また、それらの情報を自己の課題意識を踏まえて整理し、アウトプット(外に出すこと)ができる。	
1		3 満州事変から国際的孤立へ	○	◎	○				
		4 軍部の政治的台頭	○	○	◎				
		5 中国との戦い		○	○	◎			
		6 第二次世界大戦と世界新秩序	○	○	◎				
2		7 太平洋戦争	○	○	◎				
		8 日本の敗北	○	◎	○				
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	○	◎			
3	第6章 占領下の日本	1 占領政策の展開		○	○	◎	知 識 ・ 理 解 我が国の近代史以降に焦点を当て、その歴史的過程を世界の国々との関係性の中でとらえ、生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。		
		2 戦後民主主義の定着	○	◎	○				
		3 政治・経済の再建 4 独立の回復		○	○	◎			
三 学 期								評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」の四つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
									備 考

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	5 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	4	単位
----	------	----	------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	詳説 日本史 改訂版	出版社名	山川出版社
------	------------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第Ⅰ部 原始・古代	歴史へのアプローチ「歴史と資料」	◎	○			授 業 の 概 要 日本の原始・古代から江戸時代までの歴史を詳しく学習し、我が国の歴史的過程と生活・文化の特色について理解し、民主的な国家社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養います。 学 習 の 到 達 目 標 ・日本の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 ・日本の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培うことができる。 ・文献、絵画などの諸資料を活用しながら、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現することができる。
		第1章 日本文化のあけぼの	1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権 "	○	○			
		中間考査(5/15～5/18)	"	○	○	○	◎	
		第2章 律令国家の形成	1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形成	○	○	○	○	
	5	第3章 貴族政治と国風文化	1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	○	○	○	◎	
		期末考査(6/27～7/3)	"	○	○	○	◎	
		夏季休業日(7/21～8/26)	"					
		第Ⅱ部 中世	1. 院政と平氏政権 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化	○	○	○	○	
二 学 期	6	第4章 中世社会の成立	1. 院政と平氏政権 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化	○	○	○	○	評 価 の 観 点 関心・意欲・態度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現している。 資 料 活 用 の 技 能 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けている。 知 識 ・ 理 解 我が国の歴史の展開について基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。
		中間考査5年(10/2～10/5)	"	○	○	○	◎	
		中間考査4・6年(10/9～10/12)	"	○	○	○	○	
		第5章 武家社会の成長	1. 室町幕府の成立 " 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 " 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	○	○	○	○	
	7	期末考査(11/28～12/4)	歴史へのアプローチ「歴史の解釈」	○	○	○	◎	
		第Ⅲ部 近世	1. 織豊政権 "	○	○	○	○	
		第6章 幕藩体制の確立	"	○	○	○	○	
		冬季休業日(12/21～1/6)	"					
三 学 期	1	第7章 幕藩体制の展開	歴史へのアプローチ「歴史の説明」	◎	○			
		1. 幕政の安定 "	○	○	○	○		
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)	"	○	○	○	◎	
	2	2. 経済の発展 3. 元禄文化	○	○	○	○		
		3	"	○	○	○	◎	
		備 考	6年次に継続して学習します。					

平成30年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	世界史A	学年	5年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	明解世界史A	出版社名	帝国書院
------	--------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	1章 前近代の諸文明 序説 人類のはじまり 1節 東アジアの文明	1 地球上に現れた人類と文明 1 中国に生まれる統一国家-中国文明の成立 2東アジアのもう一つの勢力 3 東アジアの国際的な大王朝 4 諸民族によって統治された時代	◎	○	○		授業の概要 人類の発生・進化の過程や文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追求するとともに、人類史について概観し、基本的知識を身に付けます。世界のそれぞれの地域の風土、生活、言語、思想などについて関心を深め、意欲的に追求し、独自の文明や交流圏をつくりあげていくことを考えさせます。地球規模での問題の出現を理解し、①人間の権利と自由の現状と歴史、②文化の接触による現代の課題と取組、③共生をめざす取組、の3つの観点より考察する力を養います。
		2節 南アジアの文明 3節 東南アジア 4節 西アジア・北アフリカの文明	1 数々の宗教が成立した南アジア 1 外来文化を吸収した南アジア 1 オリエントの古代文明 2 イスラームの誕生と広がり 3 イスラームの栄光と分裂	○	○	◎		
	5	中間考査(5/15～5/18)		○	○	◎		
	6	5節 ヨーロッパの文明 6章 南北アメリカ 7章 ユーラシアの交流圏	1 ヨーロッパ文明の源流 2 祈る人・戦う人・働く人 3 まちとくにの発達 1 独自の文明を築きあげた南北アメリカ 1 ユーラシアを結ぶ陸の道・海の道	○	○	◎		
		2章 一体化に向かう世界	1 モンゴル帝国のあとにおこった諸大帝国 2 イスラーム諸王朝の繁栄	○	○	◎		
		1節 繁栄する東アジア 2節 大航海時代と新たな国家の形成	3 明の繁栄 4 清の繁栄 5 交易で結びつく東アジア諸国 1 ヨーロッパのめざめ 2 大航海時代の始まり 3 ヨーロッパの新しい国際関係	○	○	◎		
		期末考査(6/27～7/3)		○	○	◎		
	7	1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	4 ヨーロッパ諸国の国づくりと文化の発展 5 アジア・アメリカへ進出するヨーロッパ 1 イギリスから独立するアメリカ 2 ヨーロッパ近代化の出発点	○	◎	○		
		夏季休業日(7/21～8/26)						
	二学期	8	2節 自由・ナショナリズムの進展	3 ナポレオンのヨーロッパ支配からウィーン体制へ 4 フランス革命と社会生活の変化 5 大西洋を越えて広がる革命の波 6 産業革命という大変革の開始 7 資本主義の発展と社会主義の運動の発生	○	◎	○	
1 1848年 “世界の工場”イギリス 3 国民国家の発展と列強の成立				○	○	◎		
9		3節 アジア諸国の動揺	4 ロシアの拡大と改革 5 南北戦争と戦後の発展 6 科学の世紀 1 オスマン帝国の弱体化 2 侵略に抵抗するイスラーム諸国 3 ムガル帝国の崩壊とインド大反乱 4 東南アジアの植民地化	○	○	◎		
		中間考査5年(10/2～10/5) 中間考査4・6年(10/9～10/12)		○	○	◎		
10		4節 東アジアの大変動	1 東アジアと欧米列強 2 アジアにおける工業化と日清戦争 3 東アジアをめぐる国際関係 4 孫文が導いた辛亥革命	○	○	◎		
		1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成 2節 第一次世界大戦がもたらしたものの	1 大衆社会の出現 2 世界を分割する帝国主義 3 世界の一体化と人口移動 1 ドイツの朝鮮とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と民族の問題 4 ウィルソンとヴェルサイユ体制 5 ヨーロッパの荒廃と復興 6 アメリカの繁栄と大衆文化	○	○	◎		
		3節 “民族自決”を求めて	1 中東・インドの民族運動 2 東アジアの民族運動	◎	○	○		
		期末考査(11/28～12/4)		○	○	◎		
11		4節 経済危機から第二次世界大戦へ	1 世界恐慌とローズヴェルト 2 ファシズムの台頭 3 経済不況から日中戦争へ 4 ヒトラーの要求と第二次世界大戦 5 被害拡大と戦争の終わり	○	○	◎		
		冬季休業日(12/21～1/6)						
三学期	1	2章 冷戦から地球社会へ	1 新たな対立と協調の模索 2 対立する二つの陣営 3 達成されるアジアの独立 4 多極化する世界 5 中東戦争とイスラーム復興 6 アメリカ・ソ連の緊張と緩和	○	○	◎		
		1節 冷たい戦争の時代 2節 冷戦終結への道のり	1 ゆらぐアメリカと先進各国の変化 2 経済発展に取り組むアジア諸国 3 冷戦の終結と変わる世界構造	○	○	◎		
	2	3節 地球社会への歩み	1 グローバル化する社会と経済 2 超大国アメリカと中東情勢 3 日本を取り巻くアジアの動き 4 地球的課題と解決への努力	○	○	◎		
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	○	◎		
	3	4節 持続可能な社会をめざして	1 環境保全への取り組み 2 人間の権利と自由の保障 3 対立から異文化との共生へ 4 共に生きる世界を築くために	◎	○	○		
				◎	○	○		

平成30年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	世界史A	学年	5年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	明解世界史A	出版社名	帝国書院
------	--------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一学期	4	1章 前近代の諸文明 序説 人類のはじまり 1節 東アジアの文明	1 地球上に現れた人類と文明 1 中国に生まれる統一国家-中国文明の成立 2東アジアのもう一つの勢力 3 東アジアの国際的な大王朝 4 諸民族によって統治された時代	◎	○	○		授業の概要 人類の発生・進化の過程や文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追求するとともに、人類史について概観し、基本的知識を身に付けます。世界のそれぞれの地域の風土、生活、言語、思想などについて関心を深め、意欲的に追求し、独自の文明や交流圏をつくりあげていくことを考えさせます。地球規模での問題の出現を理解し、①人間の権利と自由の現状と歴史、②文化の接触による現代の課題と取組、③共生をめざす取組、の3つの観点より考察する力を養います。	
		2節 南アジアの文明 3節 東南アジア 4節 西アジア・北アフリカの文明	1 数々の宗教が成立した南アジア 1 外来文化を吸収した南アジア 1 オリエントの古代文明 2 イスラームの誕生と広がり 3 イスラームの栄光と分裂	○	○	◎			
		中間考査(5/15～5/18)		○	○	◎			
		5節 ヨーロッパの文明 6章 南北アメリカ 7章 ユーラシアの交流圏	1 ヨーロッパ文明の源流 2 折る人・戦う人・働く人 3 まちとくにの発達 1 独自の文明を築きあげた南北アメリカ 1 ユーラシアを結ぶ陸の道・海の道	○	○	◎			
	6	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄する東アジア 2節 大航海時代と新たな国家の形成	1 モンゴル帝国のあとにおこった諸大国 2 イスラーム諸王朝の繁栄 3 明の繁栄 4 清の繁栄 5 交易で結びつく東アジア諸国 1 ヨーロッパのめざめ 2 大航海時代の始まり 3 ヨーロッパの新しい国際関係	○	○	◎			
		期末考査(6/27～7/3)		○	○	◎			
		7	1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	4 ヨーロッパ諸国の国づくりと文化の発展 5 アジア・アメリカへ進出するヨーロッパ 1 イギリスから独立するアメリカ 2 ヨーロッパ近代化の出発点	○	◎	○		
	夏季	8	夏季休業日(7/21～8/26)						
		9	2節 自由・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺	3 ナポレオンのヨーロッパ支配からウィーン体制へ 4 フランス革命と社会生活の変化 5 大西洋を越えて広がる革命の波 6 産業革命という大変革の開始 7 資本主義の発展と社会主義の運動の発生 1 1848年 2 “世界の工場”イギリス 3 国民国家の発展と列強の成立 4 ロシアの拡大と改革 5 南北戦争と戦後の発展 6 科学の世紀 1 オスマン帝国の弱体化 2 侵略に抵抗するイスラーム諸国 3 ムガル帝国の崩壊とインド大反乱 4 東南アジアの植民地化	○	◎	○		
	二学期	10	中間考査5年(10/2～10/5) 中間考査4・6年(10/9～10/12)		○	○	◎		
4節 東アジアの大変動			1 東アジアと欧米列強 2 アジアにおける工業化と日清戦争 3 東アジアをめぐる国際関係 4 孫文が導いた辛亥革命	○	○	◎			
11		1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成 2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 3節 “民族自決”を求めて	1 大衆社会の出現 2 世界を分割する帝国主義 3 世界の一体化と人口移動 1 ドイツの朝鮮とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と民族の問題 4 ウィルソンとヴェルサイユ体制 5 ヨーロッパの荒廃と復興 6 アメリカの繁栄と大衆文化 1 中東・インドの民族運動 2 東アジアの民族運動	○	○	◎			
12		期末考査(11/28～12/4) 4節 経済危機から第二次世界大戦へ	1 世界恐慌とローズヴェルト 2 ファシズムの台頭 3 経済不況から日中戦争へ 4 ヒトラーの要求と第二次世界大戦 5 被害拡大と戦争の終わり	○	○	◎			
冬季		12/21～1/6	冬季休業日						
三学期	1	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代 2節 冷戦終結への道のり	1 新たな対立と協調の模索 2 対立する二つの陣営 3 達成されるアジアの独立 4 多極化する世界 5 中東戦争とイスラーム復興 6 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 1 ゆらぐアメリカと先進各国の変化 2 経済発展に取り組むアジア諸国 3 冷戦の終結と変わる世界構造	○	○	◎			
		3節 地球社会への歩み	1 グローバル化する社会と経済 2 超大国アメリカと中東情勢 3 日本を取り巻くアジアの動き 4 地球的課題と解決への努力	○	○	◎			
	2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	○	◎			
	3	4節 持続可能な社会をめざして	1 環境保全への取り組み 2 人間の権利と自由の保障 3 対立から異文化との共生へ 4 共に生きる世界を築くために	◎	○	○			

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	世界史B	学年	5 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	4	単位
----	------	----	------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	詳説世界史 改訂版	出版社名	山川出版社
------	-----------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	世界史への扉	世界史への扉	◎	○	○		<p>授 業 の 概 要</p> <p>各国の先史・古代から近現代までの歴史を詳しく学習し、世界の形成の歴史的過程と生活・文化の特色について理解し、国際社会に主体的に生きる民主的な国家社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養います。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・各国の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 ・世界各国の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培うことができる。 ・世界遺産、遺跡などの歴史的建造物や絵画、文献などの諸資料を活用しながら、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現することができる。</p> <p>評 価 の 観 点</p> <p>関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。</p> <p>思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現している。</p> <p>資 料 活 用 の 技 能</p> <p>世界史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けている。</p> <p>知 識 ・ 理 解</p> <p>世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、上記の「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点に基づき学習内容のまよりごとに評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。</p> <p>備 考</p>
		序章 先史の世界	1 古代オリエント世界	○	◎	○		
		第1章 オリエントと地中海世界	2 ギリシア世界	○	◎	○		
			3 ローマ世界	○	◎	○		
	5	中間考査(5/15～5/18)			◎	○	○	
	6	第2章 アジア・アメリカの古代文明	1 インドの古典文明	◎	○	○		
			2 東南アジアの諸文明	○	○	◎		
			3 中国の古典文明	○	◎	○		
			4 南北アメリカ文明	○	○	◎		
	7	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1 草原の遊牧民とオアシスの定住民	○	○	◎		
		期末考査(6/27～7/3)			○	○	◎	
			2 北方民族の活動と中国の分裂	○	◎	○		
		3 東アジア文化圏の形成	○	◎	○			
8	夏季休業日(7/21～8/26)							
二 学 期	9	第4章 イスラーム世界の形成と発展	1 イスラーム世界の形成	○	◎	○		
			2 イスラーム世界の発展	○	○	◎		
			3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	○	○	◎		
			4 イスラーム文明の発展	○		◎	○	
	10	中間考査5年(10/2～10/5)			○	○	◎	
		中間考査4・6年(10/9～10/12)			○	○	◎	
11	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	1 西ヨーロッパ世界の成立	○	○	◎			
		2 東ヨーロッパ世界の成立	○	○	◎			
		3 西ヨーロッパ中世世界の変容	○	◎	○			
		4 西ヨーロッパの中世文化	○	○		◎		
12	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	1 トルコ化とイスラーム化の進展	○	○	◎			
		2 東アジア諸地域の自立化	○	◎	○			
	期末考査(11/28～12/4)			○	○	◎		
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/6)						
		第7章 アジア諸地域の繁栄	1 東アジア世界の動向	○	◎	○		
			2 清代の中国と隣接諸地域	○	○	◎		
2		3 トルコ・イラン世界の展開	○	○	◎			
	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	○	◎	○			
3	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	1 ヨーロッパ世界の拡大	○	○	◎			
		2 ルネサンス	◎	○	○			
		3 宗教改革	○	◎	○			
		4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	○	◎	○			

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	地理B	学年	5 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	2	単位
----	------	----	-----	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	新詳 地理B	出版社名	帝国書院
------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第I部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図	1 現代世界の地図	○	◎	○		授 業 の 概 要 地形と生活のかかわりの多様性や地域性を理解し、系統地理的にとらえます。 気候の特徴と人間生活への影響の多様性や地域性を理解します。 産業と自然のかかわりや産業のグローバル化の基礎的用語を理解します。 現代世界の貿易と経済圏について環境条件に関連づけて理解し、地理的に考察します。 衣食住など人々の生活や文化の多様性を理解し、他者と共存・共生をはかる態度を身に付けます。	
			2 地図の種類とその利用	○	◎	○			
		3 地理情報の地図化		○	○	◎			
		2章 地図の活用と地域調査		○	○	◎			
	5	第II部 現代社会の系統地理的考察 中間考査(5/15～5/18)	1 世界の地形		○	○	◎		
				1章 世界の地形		◎	○		○
	6	期末考査(6/27～7/3)			○	○	◎		
					○	○	◎		
	7		2 世界の気候		○	◎	○		
					○	◎	○		
	8	夏季休業日(7/21～8/26)							
	9		3 日本の自然の特徴と人々の生活		○	○	◎		
				○	○	◎			
10	中間考査5年(10/2～10/5) 中間考査4・6年(10/9～10/12)	4 環境問題		○	○	◎			
				○	○	◎			
11	2章 資源と産業	1 産業の発達と変化		○	○	◎			
			2 世界の農林水産業		○	○	◎		
12	3 食糧問題			○	○	◎			
				○	○	◎			
二 学 期	期末考査(11/28～12/4)	4 世界のエネルギー・鉱産資源		○	○	◎			
				○	◎	○			
冬 季	冬季休業日(12/21～1/6)	5 資源・エネルギー問題		○	◎	○			
			6 世界の工業		○	◎	○		
三 学 期	7 第3次産業			○	◎	○			
				○	◎	○			
1	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	8 世界を結ぶ交通・通信		○	○	◎			
			9 現代世界の貿易と経済圏		○	○	◎		
2				○	○	◎			
				○	○	◎			
3				○	○	◎			
				○	○	◎			

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	6年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	4	単位
----	------	----	------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	詳説 日本史 改訂版	出版社名	山川出版社
------	------------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第8章 幕藩体制の動揺	1. 幕政の改革		○		○	授 業 の 概 要 日本の近世から近現代までの歴史を詳しく学習し、我が国の歴史的過程と生活・文化の特色について理解し、民主的な国家社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養います。	
			2. 宝暦・天明期の文化			◎	○		
			3. 幕府の衰退と近代への道		○		○		
			4. 化政文化			◎	○		
	5	中間考査(5/15～5/18)	"			◎	○		
	6	第IV部 近代・現代 第9章 近代国家の成立	1. 開国と幕末の動乱		○		○		学 習 の 到 達 目 標 ・日本の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 ・日本の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培うことができる。 ・文献、絵画などの諸資料を活用しながら、歴史的対象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現することができる。
			2. 明治維新と富国強兵		○		○		
			3. 立憲国家の成立と日清戦争		○		○		
4. 日露戦争と国際関係				○		○			
7	第10章 二つの世界大戦とアジア	5. 近代産業の発展		○		○	評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。		
		6. 近代文化の発達			◎	○			
		1. 第一次世界大戦と日本		○		○			
		"		○		○			
夏 季	8	夏季休業日(7/21～8/26)						思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現している。	
			2. ワシントン体制		○				○
			3. 市民生活の変容と大衆文化			◎			○
			4. 恐慌の時代		○				○
二 学 期	9	第11章 占領下の日本	5. 軍部の台頭		○		○		資 料 活 用 の 技 能 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的対象を追求する方法を身に付けている。
			6. 第二次世界大戦		○		○		
			1. 占領と改革		○		○		
			2. 冷戦の開始と講和		○		○		
	10	第12章 高度成長の時代	中間考査5年(10/2～10/5)	"			◎	知 識 ・ 理 解 我が国の歴史の展開について基本的な事柄を世界的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
			中間考査4・6年(10/9～10/12)	"			◎		
			1. 55年体制		○		○		
			2. 経済復興から高度成長へ		○		○		
11	第13章 激動する世界と日本	1. 経済大国への道		○		○	評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
		2. 冷戦終結と日本社会の動揺		○		○			
		歴史へのアプローチ「歴史の論述」		◎	○				
		問題演習		○		◎			
冬 季	1	冬季休業日(12/21～1/6)	"		○			◎	
			"		○			◎	
			"		○			◎	
			"		○			◎	
三 学 期	2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	家庭学習		○		◎		
			"		○		◎		
			"		○		◎		
			"		○		◎		
3							備 考 5年次から継続して学習します。		

平成30年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	世界史B	学年	6年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	4	単位
----	------	----	------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	詳説世界史 改訂版	出版社名	山川出版社
------	-----------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一学期	4	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	1 重商主義と啓蒙専制主義	◎	○	○		<p>授業の概要</p> <p>近代において、世界の一体化を推進した諸力(近代工業力や科学技術)が、地域間の格差を強め、支配従属関係をつくり出し、時には破壊という言葉がふさわしいほどの速さで、地域の文化的枠組みを変容させたり、消滅させたりしてきたことを理解したうえで、それによって地域の構造や人々の生活・意識が根底から変化したこと、その結果として、現在の私たちの世界があることを学習していきます。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・各国の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に考察するとともに、その知識を身に付ける。 ・世界各国の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培うことができる。 ・世界遺産、遺跡などの歴史的建造物や絵画、文献などの諸資料を活用しながら、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、その結果を適切に表現することができる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現している。</p> <p>資料活用の技能</p> <p>世界史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連つけながら理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、上記の「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つの観点に基づき学習内容のまよりごとに評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。</p> <p>備考</p>
			3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	◎	◎	○		
			2 ヨーロッパ諸国の海外進出	○	◎	○		
		5	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の形成	1 産業革命	◎	○	○	
	2 アメリカ独立革命			○	◎	○		
	6	3 フランス革命とナポレオン	中間考査(5/15～5/18)		◎	○	○	
			3 フランス革命とナポレオン	◎	○	○		
			1 ウィーン体制の成立	○	○	◎		
			2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生	○	◎	○		
	7	第12章 アジア諸地域の動揺	3 南北アメリカの発展	○	○	◎		
			4 19世紀欧米の文化	○	○	◎		
			期末考査(6/27～7/3)		○	○	◎	
1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容			○	◎	○			
8	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	2 南アジア・東南アジアの植民地化	○	◎	○			
		3 東アジアの激動	○	◎	○			
		1 帝国主義と列強の展開	○	○	◎			
		2 世界分割と列強対立	○	○	◎			
9	第14章 二つの世界大戦	3 アジア諸国の改革と民族運動	○	◎	○			
		1 第一次世界大戦とロシア革命	○	○	◎			
		2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国		○	○	◎		
		3 アジア・アフリカ地域の民族運動	○	○	◎			
10	第15章 冷戦と第三世界の独立	4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	○	○	◎			
		5 第二次世界大戦	○	◎	○			
		1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	○	○	◎			
		2 ミソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	○	○	◎			
11	第16章 現在の世界	3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り	○	◎	○			
		期末考査(11/28～12/4)		○	○	◎		
		4 石油危機と世界経済の再編	○	◎	○			
		1 社会主義世界の変容とグローバル化の進展	○	○	◎			
12	第17章 現代の世界	2 途上国の民主化と独裁政権の動揺	○	◎	○			
		3 地域紛争の激化と深刻化する貧困	○	○	◎			
		4 現代文明の諸特徴	○	◎	○			
		実践問題演習	○	○	◎			
13	第18章 現代世界の諸課題	家庭学習	○	○	◎			
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	○	◎		
		3						
		3						

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	地理歴史	科目	地理B	学年	6 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	4	単位
----	------	----	-----	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	新詳 地理B	出版社名	帝国書院
------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	3章 人口、村落・都市	1 世界の人口	○	○	○		授 業 の 概 要 世界の諸地域の地理的事象について環境条件に関連つけて理解するとともに、グローバル化する現代社会において、異文化の理解や尊重の必要性、近隣諸国との交流の在り方を理解し、それらの知識を身に付けます。 現代世界について、地図化して捉える基本的な知識を身に付けます。 地球的な課題を理解し、その解決にあたっては地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考えます。特に、地理的事象からグローバルなスケールで課題を設定し、追及し、民族の共生へ向けての課題について理解するとともに、多文化共生に着目した具体的な課題を見いだし追及し、視点や方法を一般化できるような力を養います。
			2 人口問題	○	○	○		
			3 村落と都市		○	○	○	
			4 都市・居住問題		○	○	○	
	5	中間考査(5/15～5/18)		○	○	○		
	6	4章 生活文化、民族・宗教	1 生活文化	○	○	○		
			2 民族と宗教		○	○	○	
3 現代世界の国家			○	○	○	○		
		4 民族・領土問題	○	○	○	○		
夏 季		期末考査(6/27～7/3)		○	○	○	学 習 の 到 達 目 標 ・世界の諸地域の地理的事象について環境条件に関連つけて理解するとともに、異文化を尊重する態度を身に付ける。 ・地図で捉える現代世界について関心を高め、地図化に関する技能を身に付ける。 ・南北問題やさまざまな都市・居住問題について関心を高め、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考える。 ・世界の民族・領土問題に関する地理的事象からグローバルなスケールで課題を設定し、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを理解する。 ・民族の共生へ向けての課題について、資料を収集し、情報を活用する技能を身に付ける。	
		第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	1 地誌の考察方法	○	○	○		
		1章 現代世界の地域区分		○	○	○		
		夏季休業日(7/21～8/26)						
		2章 現代世界の諸地域	2 東アジア	○	○	○		
二 学 期	9		3 東南アジア		○	○		
			4 南アジア		○	○	○	
			5 西アジアと中央アジア		○	○	○	
			6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ		○	○	○	
	10	中間考査5年(10/2～10/5)	7 ヨーロッパ		○	○	○	評 価 の 観 点 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 人々の生活の営みに関心を持ち、私たちの身近にある生活課題と結びつけながら、自己と自然や社会・文化など、私たちがとりまく環境との関わりを探究しようとする。
		中間考査4・6年(10/9～10/12)	8 ロシア		○	○	○	
			9 アングロアメリカ		○	○	○	
		10 ラテンアメリカ		○	○	○		
		11 オセアニア		○	○	○	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 さまざまな地理的事象を貫く法則性や特殊性を考察し、それらを自然環境や社会環境との関係において多面的・多角的に捉え、その考察の過程や結果を適切に表現している。	
冬 季		期末考査(11/28～12/4)		○	○	○	資料活用の技能 地理的事象に関する諸資料を収集し、それらを多角的・多面的に分析・判断し、合理的に判断を下し、効果的に活用している。	
		演習		○	○	○		
		冬季休業日(12/21～1/6)						知 識 ・ 理 解 我が国及び世界の国々や人々の生活・文化の地域的特色について、法則性や特殊性を把握するとともに、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
三 学 期	1		家庭学習		○	○	○	評 価 方 法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
					○	○	○	
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	○	○		
	3							備 考

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	総合社会	科目	総合社会	学年	6 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	最新図説倫理、最新図説政経	出版社名	浜島書店、浜島書店
------	---------------	------	-----------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単 元	内 容	関	思	技	知			
一 学 期	4	1 青年期の課題と自己形成	1 人間性の特質 2 青年期がもつ意義 3 適応と個性 4 現代における青年の生き方	○	○			<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 青年期における自己形成と人間としての在り方 生き方について、先人の思想を参考に理解を深 めます。日本の思想、西洋の思想をもとに、生き る主体としての自己の確立を促します。それと もに、民主主義社会における諸課題を理解し、ど のように対処していけば良いのかを考えさせ、良 識ある公民として必要な能力と態度を養います。		
		2 民主政治の基本原則	1 世界の政治 2 日本国憲法と基本的人権	○	○		○			
		3 源流思想	1 ギリシア、キリスト、イスラーム		○		○			
		中間考査(5/15～5/18)			○	○	◎			
	5	4 政治制度	1 国会 2 内閣 3 裁判所 4 地方自治 5 政党と選挙	○			◎			
		5 日本の思想	1 日本の風土と文化の特色 2 古代日本人の考え方 3 日本の仏教 4 日本の儒教 5 国学・町人・農民の思想	○	○	○	○			
		期末考査(6/27～7/3)			○	○	◎			
		6 西洋思想の受容	6 西洋思想の受容		◎		○			
	夏 季	7	7 日本の近代思想・独創的な思想	7 日本の近代思想・独創的な思想		◎			○	<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・青年期における自己の在り方、生き方を考える ことができる。 ・日本の思想を歴史的に把握できる。 ・西洋合理主義の精神を理解できる。 ・民主社会の思想的支柱を理解できる。 ・基本的人権の背景を理解できる。 ・民主主義国家の基本的政治体制を理解でき る。 ・現代社会を取り巻く問題について理解できる。 ・市場経済について理解できる。 ・現代国家の多様な役割について理解できる。 ・国際政治の特色について理解できる。 ・国際経済体制の歴史について理解できる。
			8 西洋近代の思想	1 人間の尊重 2 合理的精神の確立 3 人間性の反省 4 社会契約説 5 人格の尊厳 6 人倫 7 民主社会の原理 8 プラグマティズム 9 主体性の回復	◎	○			○	
		9	中間考査5年(10/2～10/5) 中間考査4・6年(10/9～10/12)			○	○		◎	
		10 新たな思想の登場 11 生命への畏敬	10 新たな思想の登場 11 生命への畏敬	◎		○	○			
二 学 期	7	7 現代の国際政治	1 国際社会と国際連合 2 国際政治	○	○		○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 人間に関わる事柄に関心を高め、意欲的に課 題を追求している。より良い自己と社会の実現に 向けて参加、協力する態度を身に付けている。		
		8 現代の国際経済	1 国際収支と国際経済のしくみ 2 南北問題・食料問題	○	○		◎			
	11	9 現代経済のしくみと日本経済	1 市場経済のしくみ 2 国民所得と経済成長			○	◎			
		期末考査(11/28～12/4)			○	○	◎			
	12	3 金融政策と財政政策 4 中小企業と日本の農業	3 金融政策と財政政策 4 中小企業と日本の農業	○	○	○	○			
	冬 季	12/21～1/6								
三 学 期	1	5 消費者保護・公害防止 6 労使問題と社会保障・社会福祉	5 消費者保護・公害防止 6 労使問題と社会保障・社会福祉		○	○	○	<p style="text-align: center;">知 識 ・ 理 解</p> 人間としての在り方生き方などについての基本 的な事柄や政治、経済などの基本的な問題を理 解し、その知識を身に付けている。		
		10 現代の課題	1 地球環境問題と資源エネルギー 2 人口・食料問題 5 生命倫理 6 環境倫理 7 異文化理解 家庭学習		○	○	○			
	2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)			○	○	○			
					○	○	○			
	3									
							<p style="text-align: center;">備 考</p> 学習の状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判 断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」の4つ の観点で評価します。具体的には、おもに「出 席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小 テスト」、「提出物(レポートやノート)」により評価 します。また、学年の成績は、上記の観点から評 価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評 定します。			